

説 明 書

北九州市立医療センター

無痛分娩をお受けになる方のために

1. あなたの診断名と選択理由

診断名：妊娠 週

選択理由：本人希望・周産期管理（理由： ）

2. 目的

分娩時の強い痛みを和らげます。分娩時の痛みは、子宮が収縮する痛み（陣痛）と児が産道を通るときの痛みの2種類があります。

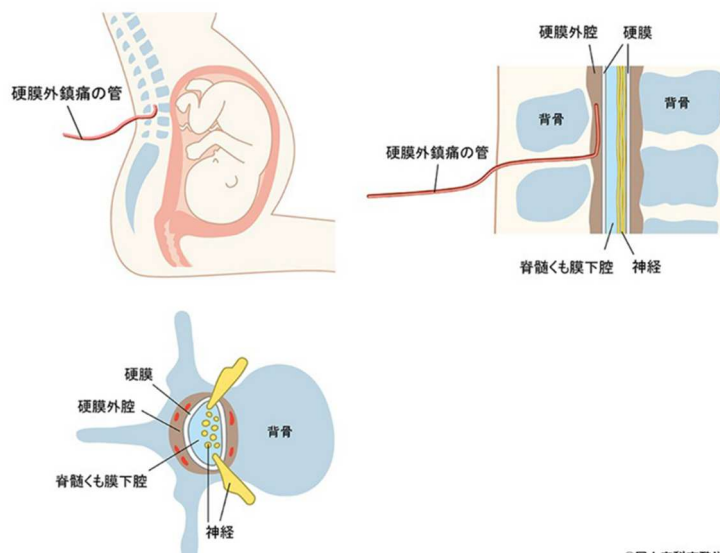
3. 硬膜外麻酔と脊髄くも膜下麻酔について

分娩の痛みを軽くするために、硬膜外鎮痛のみ、または硬膜外麻酔と脊髄くも膜下麻酔の両方を使って鎮痛を行います。

身体の中心を通る「背骨（椎骨といいます）の中を、頭からおしりに向かって太い神経が通っています。この神経のことを脊髄といいます。脊髄は首からおしりに至るまでに左右にたくさんの神経の枝を出しており、痛い・熱い・冷たいなどの感覚を脳に伝えたり、からだを動かそうとする脳からの命令を手足の先まで伝えたり、病気の部分の血液の流れを増やしたりしている大切な神経です。この脊髄は「くも膜」と「硬膜」という膜で覆われています。

「硬膜外麻酔」とは、硬膜の外側に針を刺して薬（主に局所麻酔薬）を注入し、脊髄の神経に薬を作用させ、痛みを軽くする方法です。持続的に硬膜外麻酔を行うには、細いカテーテルを用いて繰り返し薬を注入します。

「脊髄くも膜下麻酔」とは、くも膜の内側に針を刺して薬（主に局所麻酔薬）を注入し、脊髄の神経に薬を作用させ、痛みを軽くする方法です。



4. 当院の無痛分娩の安全体制

当院では、厚生労働省が推奨する『無痛分娩の安全な提供体制の構築に関する提言』に基づく自主点検表』に従い、安全な無痛分娩を提供しています。

5. 具体的な方法

脊椎（背骨）の間から針を刺すために、背中を医師に受けるように座った姿勢になります。このとき、首はおへそを見るように曲げ、背中を丸くします。こうするとスムーズに注射ができますのでご協力をお願いします。



図3 ブロック時の体位

まず、硬膜外麻酔の針を刺す部位に、細い針で痛み止めの注射をします。次に硬膜外麻酔の針で注射をします。痛い場合はなるべく体を動かさずに「痛い」と伝えてください。痛み止めを追加します。脊髄くも膜下麻酔も同様に行います。

硬膜外麻酔では、この針を通じて細いカテーテルを挿入し、カテーテルの先端から薬を入れます。背骨の変形がある場合などでは、挿入の操作に少し時間がかかることがあります。困難と判断した場合は、中止することがあります。硬膜外カテーテルの挿入が終わったらテープで固定します。

10～15分後にきちんと効果が得られているかを確認めます。気分が悪い、体に力が入らない、息苦しいなどの症状はいつでもお知らせください。

6. 危険性と合併症

硬膜外麻酔・脊髄くも膜下麻酔は、安全で一般的によく行われている手技ですが、以下の合併症を引き起こす可能性があります。

(1) 母体に起こりうること

① 血圧低下

硬膜外麻酔には血管を広げる効果があるため、血圧が低下しやすくなります。血圧低下が著しい場合には点滴や投薬が必要になることがあります。

② しびれ、下肢の動かしづらさ

局所麻酔薬の作用で下肢のしびれや動かしづらさを感じることがあります。程度により歩行やいきむことができなくなりますので、局所麻酔薬の濃度や量を調整します。

③ 尿閉 (5%)

尿意が分からなくなったり、排尿が難しくなることがあります。定期的に導尿を行います。

④ 効果不十分、カテーテルの自然抜去

硬膜外麻酔は、効果が左右のどちらか一方に偏ることや、十分な範囲に効果が得られない場合があります。また、カテーテルの位置が移動したり、カテーテルが自然に抜けることがあります。途中で効果が不十分となることがあります。目的とする場所に効果が得られない場合には、カテーテルの入れ替えが必要となることがあります。

⑤ 穿刺部の痛み (5%)

針を刺した部分に痛みが生じます。ほとんどの方は数日で軽快します。

⑥ 局所麻酔薬中毒

硬膜外腔に薬を注入する際、血管内に局所麻酔薬が入ってしまうことがあります。頭がふらつく、ろれつが回らない、喋りにくい、唇がしびれる、眠いなどの症状が起こります。

⑦ 硬膜穿刺後頭痛 (0.5~1%)

硬膜外針やカテーテルによって硬膜を傷つけてしまう場合があります、そこから脳脊髄液が漏出すると、体を起こした時に頭痛が起きることがあります。徐々に頭痛が治まることもありますが、点滴・内服・硬膜外自己血注入療法などが必要になることもあります。

⑧ 神経損傷 (0.01%以下)

硬膜外腔へ針を進めていく途中で、まれに針が神経を傷つけてしまうことがあります (0.06%)。この時に生じた痛みやしびれは、中止することで治まりますが、長く残ってしまう場合もあります。痛みやしびれの強さによっては、薬の内服や、入院して様子をみなければならない場合もあります。

⑨ アナフィラキシー反応 (頻度不明)

局所麻酔薬によるアレルギー反応で、ごくまれに起こる合併症です。かゆみや蕁麻疹が生じたり、気分が悪くなったり、しばらくの間意識を失ったり、呼吸しにくくなってしまう場合があります (アナフィラキシーショック)。麻酔科ではそのような場合に備えて、呼吸・循環管理が行えるように常に準備しています。

⑩ くも膜下ブロック (硬膜外麻酔の場合) (0.4%)

硬膜外腔のすぐ下には脊髄が入っているくも膜下腔があります。深く針が入りくも膜下腔に薬が入ると、強い麻酔作用が生じ回復に2~3時間を要する場合があります。

ID :

あります。息が苦しくなったり、血圧低下を引き起こした場合には点滴や呼吸・循環管理を行います。

⑪ 感染症(硬膜外膿瘍) (0.01%以下)

硬膜外麻酔・くも膜下麻酔は清潔な状態で行いますが、針を刺す場所の近くや針の通り道が感染を起こしている場合、細菌が硬膜外・脊髄腔内に入ってしまうことがあります。多くの感染は注射後1週間以内に、針を刺した跡が痛い、背中を動かすと痛い、発熱、頭痛などの症状で現れます。抗生物質の投与や、感染した場所を手術で取り除くなどの処置が必要になります。

⑫ 硬膜外血腫 (0.01%以下)

硬膜外腔で出血が生じ、血液の大きな塊となる場合です。穿刺後、半日～1日で針を刺した辺りが痛い、足に力が入らないなどの症状として現れます。この場合、手術で血腫を取り除く処置が必要になります。

(2) 胎児への影響

麻酔薬は、胎盤を通過してわずかに赤ちゃんに移行しますが、これまでの研究結果では麻酔薬の影響はないといわれています。

鎮痛開始後数分以内に一時的に、赤ちゃんの心音が低下することがあります(10%前後)が、適切に対応することでその後のお産の経過には影響しません。

万が一、合併症や偶発症(予測できない有害事象)が起きた場合には最善の治療を行います。

6. 実施日

日曜日に入院し、月曜日に硬膜外麻酔・脊髄くも膜下麻酔を行います。月曜日の17時までに分娩に至らない場合は、硬膜外カテーテルを抜去し、通常の誘導分娩を行います。

7. 無痛分娩の費用

無痛分娩による硬膜外麻酔・脊髄くも膜下麻酔は保険診療ではなく、実費負担となります。硬膜外麻酔・脊髄くも膜下麻酔を行い、月曜日17時までに分娩に至らない場合も、無痛分娩費用(10万円)を負担していただきます。

ID :

同意書

北九州市立医療センター

私は、患者_____様の無痛分娩に関して、その内容、目的、必要理由、副作用、危険性、予後および代替え可能な医療について、別紙説明書に基づいて説明しました。

医師 : _____印

確認者署名 : _____

北九州市立医療センター
院長 様

私は、無痛分娩に関して、上記の内容の説明を受け、十分に理解した上で上記の医療を受けることを同意しました。

また、上記の医療を行う上で必要な処置、および上記医療において予測されない状況が発生した場合には、それに対処するための緊急処置を受けることも併せて同意しました。

年 月 日

患者本人署名 : _____

代理人（家族等関係者）署名 : _____

患者との関係性 : _____

1. 患者本人の署名がある場合は、「代理人（家族等関係者）欄」の署名は不要です。
2. 患者本人が未成年者の場合や判断不能な場合は、家族等関係者が「代理人（家族等関係者）署名欄」に自身の名前を記入してください。なお、患者本人署名欄の記載は不要です。
3. 本人の同意に基づき「患者本人署名欄」を代筆した場合は、患者本人署名欄の下に、「代筆者 代筆者のお名前」を記載してください。なお、当院の職員は代筆できません。
なお、代筆者が不在の場合、口頭で確認した同意の意思表示について診療記録に記載させていただきます。